

## 漢字は“文字”はでなく“語(ワード)”

漢字は字数が多く、しかも字形が複雑なので、学習負担が多い、と言われている。今まで、西欧の学者たちは、漢字のそれらの点を理由に、前時代的な文字だと決めつけているが、それは正しくない。

漢字は、ローマ字と同じく“字”と呼ばれているために今まで誤解されてきた“漢字の“山”や“川”に当たるものは、英語なら“mountain”“river”である。つまり、漢字は“字”(アルファベット)”ではなくて、実は“語(ワード)”なのである。

では、漢字のアルファベットに当たるものは何かと言えば、それは“字画”であろう。漢字は、“丶・一・丨・ノ・㇇”の五つの字画によって作られている。だから、漢字のアルファベットは、最も字画が簡単で、数も少ないのである。

漢字が“語”であることを知れば、それが二千、三千あっても不思議はない。どこの国でも、二千や三千の“語”を学習させている。漢字の学習だけが特別に大きい負担になっている、というのは明らかに誤解である。

その証拠に、二十六字のアルファベットを使用している西欧諸国の小学生たちは、毎日、学習時間の半分以上を“読み書き学習”に当てているのに、教科書が読めるまでに至らない子供が二、三十パーセントもいる、と報告されている。

漢字は、俗に“<sup>りくしょ</sup>六書”と呼ばれる体系的な造字法によって作られているものであるから、その構成について理解させ、体系的、論理的に漢字を学習させるようにするならば、漢字の学習は楽しいものになり、容易に記憶できて、しかも忘れがたいものになるのである。

ところが、これを従来のように、ただがむしゃらな反復練習によって丸暗記するように要求するものだから、漢字学習は苦勞ばかり多くて効果が少ない学習になってしまうのである。こういう学習は、悪いことに、折角覚えたと思ってもその記憶は長続きしない。

今まで、だれもがこういう学習を余儀なくされていたので、漢字は悪評を被っていたのであるが、それは決して漢字の罪ではない。漢字について無知な教師たちが、愚かな学習を強制したから、学習が無味乾燥なものになり、そのため、私のような“漢字拒絶”の子供を作ってしまったのである。

思えば、私も長い間不当に漢字を憎んで来たものである。ほんとの漢字学習をすれば、楽しく学習できて、しかも、力がつくものを、その正しい学習法を知らないばかりに、漢字を憎悪してきたのである。漢字こそいい面の皮である。

岡井先生から、漢字の構成法を学んだ私は、私のような愚かな道を歩む者は出来たら私限りにしたい、と思い、これを私の生涯の道にしたい、と思うようになった。

しかし、第二次世界大戦は、その希望を中絶させた。幸い、いくつかの死線を乗り越えることが出来て、教壇に立つことが出来た時、今度こそ正しい漢字教育の樹立と普及のために、精いっぱい努力をしなければ、と思った。